

氏名	棚崎 由紀子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第5421号
学位授与の日付	平成28年 9月30日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	冷え症高齢者に対するフットマッサージの冷え症状の緩和効果
論文審査委員	西田眞壽美 教授、 森本美智子 教授、 沖中由美 准教授

学位論文内容の要旨

本研究は、冷え症の女性高齢者に対するフットマッサージの冷え症状の緩和ケア技術としての有用性を生理的・主観的指標により検討した。冷え症高齢者 25 名 (73.4±5.4 歳) と対照とした健康高齢者 27 名 (71.3±4.3 歳) による無作為化によらない 2 群比較を行う準実験研究デザインで行った。フットマッサージは、足部から下腿部の範囲を右足から 10 分間ずつ計 20 分間、両手掌で軽擦し、その後 30 分間の安静を図った。効果については皮膚温、血流量、心拍変動等の生理的指標と POMS 短縮版、下肢の温かさの主観的指標により評価した。その結果、両群ともに皮膚温、血流量は実施前と比べて有意に上昇し、心拍数は低下した ($P<0.05$)。また、右足への実施後に血圧は有意に低下し、HF は上昇、LF/HF は低下した ($P<0.05$)。さらに、両群の下肢の温かさの自覚も増した ($P<0.05$)。

以上のことから、冷え症高齢者に対するフットマッサージは、冷え症状を緩和するケア技法として有用であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

論文審査要旨：

本論文は、老人クラブなどに参加している65歳以上の女性を対象とし、フットマッサージの有用性を生理的・主観的指標により検討したものである。

診断基準 (寺澤1987) に基づいて冷え症高齢者25名と健康高齢者27名に区分し、フットマッサージの介入効果を2群比較により分析した結果、介入前の冷え症高齢者は健康高齢者と比べてBMIが低い、CAVIが高い (動脈硬化の疑いあり)、鼓膜温が低い、足の凍瘡、頻尿、便秘の自覚が有意に認められた。介入後は両群ともに皮膚温、血流量は有意に上昇し、心拍数は低下した。また、血圧の低下、HF上昇、LF/HF低下、下肢の温かさの自覚が増強した。これらの結果をみると、本対象者の半数近くが冷え症の診断基準に合致し、いくつか特異的な兆候が観察されたが、フットマッサージの介入効果は両群ともに同様の効果があり差異は認められなかった。

総合的な評価として、比較対照群の設定や介入方法に再考の余地を残し限定的ではあるが、今後、冷え症高齢者に対する効果的なフットマッサージの活用可能性を示唆する基礎的な研究成果であり、学位の授与に値すると判定した。